

農業後継者育成基金事業

令和4年度農高・農大就農促進対策事業(農高就農促進対策助成)

事業主体名 鹿児島県立種子島高等学校

1 目的

本校の入学生の多くは第二種兼業農家と非農家であるため、農業学習・農業体験を行うことは、興味・関心を高めていくために必要なことで、地域農業の実態を把握させるための視察研修や職場体験学習は必然的で、教育的効果も高いと考える。生徒がより見聞を広め、農業への理解と就農意欲の醸成と教育的効果を高めることを期待する。

2 実施状況(主要なものを選定して記載してください)

(1)地域交流の実施

12月18日西之表市の街角インフォメーションセンターにて販売会と体験学習を行った。販売については、生徒が商品準備や接客を行いながら地域の方との交流を図ることができた。また、体験学習では、コケ玉作り体験ということで、生徒が日頃学習してきたことを幼児や小学生を対象に先生役として、教えることができた。日頃の学習をフィードバックし、再度自らの学習に活かしていける良い機会であった。



(2)1年生島内視察研修の実施

南種子町にあるサツマイモ基腐れ病用の蒸熱処理装置、かごしま有機種子島事業部の有機農業圃場、レーザーリーフファン、安納芋圃場等を見学し、地元である種子島島内で取り込まれている農業の現状を知ることができた。特に問題となっているサツマイモ基腐れ病の蒸熱処理装置にでの病気対策方法を学ぶことで学校での栽培でも気をつけていかなければならないと意識を高めることができた。



(3)2年生島外視察研修の実施

カミチクファームおよび加工センター、小田畜産などの畜産に関する研修を行った。食肉の解体作業や衛生面などの資格等について学習をすることでより、実際の経営への取り組みや日常の管理についてより実践的に学ぶことができた。



3 今後の課題, 取り組み

本事業を活用することは、生徒にとって有意義な視察や研修、交流を実施できる。生徒の意欲が研修後も継続できるように、学校の農業教育と並行していきたい。本年度は2年生の視察研修に鹿児島大学の視察を取り入れ、進路先のひとつとして4年制大学への進学も考えられるようにしていきたい。販売会時に体験学習をできるような機会を作ることで、生徒の学びの還元と振り返りの機会になった。

コロナの関係から小学校での出前授業も実施することができた。来年度は、本年度以上に活動の場を増やしていけるように、日々の学習に力を注いでいきたい。本年度の農業に関する進路実績は、農業大学校1名、農業関係就職2名であった。来年度は4年制大学や農業大学校への進学者や農業従事者および農業理解者を育て、地域農業を支える人材育成に尽力していきたい。